

# 令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 令和3年10月4日

事業名	市政報告会		
会派名	神奈川ネットワーク運動	報告者	国兼 久子 (☎080-5539-5680)
参加者	国兼 久子		
区分	<input type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input checked="" type="checkbox"/> ③広聴 <input type="checkbox"/> ④その他 ( )		

## 概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日時	訪問先、会場、主催者等
	①9月28日(火) 午前10時00～午前11時 30分	会場：大和市桜丘学習センター 104会議室 (大和市福田1丁目30-1) 主催：神奈川ネットワーク運動 大和市議団
	②	
	③	
目的 (どのような課題を解決するためかなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月議会報告を行い、一般質問の内容と行政側の答弁を報告した。</li> <li>・中央地区の「大和市中央地区支え合い協議会」のコーディネーターのおひとりをお迎えし、協議体の発足から現在の活動についてお話いただき、参加者と共有した。</li> <li>・地域からの課題を参加者と共有し、行政への提案、一般質問につなげ生活者視点での暮らしやすさを実現していく。</li> </ul>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大和市議会9月議会報告</li> <li>2. 大和市の協議体の現状と課題。地域の協議体について「大和市中央地区支え合い協議会」のコーディネーターとの意見交換</li> <li>3. 地域からの課題と提案</li> </ol>	
成果等 (市に活かせること等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月議会の報告を通して、広く市政情報を伝えることができた。</li> <li>・参加者には、地域で民生委員をしている方や生活相談員や介護職の経験者、元グループホーム運営に関わった方など社会資源としての活動経験者が多く参加して下さった。また、親の遠距離介護を経験している方からは、9月議会の報告に大変関心を持ってもらえたのは良かった。</li> <li>・自身の老後も迫っている方からは、成年後見制度はハードルが高く感じていたが社協などの法人後見や市民後見人に関心を持ってもらえた。市民への周知は大事だと感じた。引き続き後見制度について議会で提案と地域への発信をしていきたい。</li> <li>・大和市が協議体の設置を進めていることをご存じない方がいて、今回市政報告会で「大和市中央地区支え合い協議会」のコーディネーターの講話は反響があった。</li> </ul>	

	<p>市内に5か所設置が進んだが、まだ未設置の高座渋谷地域から参加した方からは自分たちの地域にもぜひ欲しいとの声を頂いた。</p> <p>また、地域にお任せではなく、行政がリードしなければ設置が進まないとの声を議会で提案したいと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍、三密を避けながらこれからも報告会は地域ごとに行っていきたい。</li> </ul> <p>市政について意見交換できる機会を設けることで直接市民の声をいただくことができ、お互いに有意義な時間だった。</p>
事業費	<p><u>1,200円</u> (会場費: 1,200円)</p>

※訪問先が2カ所以上の場合は行程表を添付すること

# 令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 令和3年12月27日

事業名	市政報告会		
会派名	神奈川ネットワーク運動	報告者	国兼 久子 (☎080-5539-5680)
参加者	国兼 久子		
区分	<input type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input checked="" type="checkbox"/> ③広聴 <input type="checkbox"/> ④その他 (                      )		

## 概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日時	訪問先、会場、主催者等
	①12月24日(金) 午前10時00～午前11時 30分	会場：大和市渋谷学習センター 308会議室 (大和市渋谷5丁目22 IKOZA3F) 主催：神奈川ネットワーク運動 大和市議団
	②	
	③	
目的 (どのような課題を解決するためかなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月議会報告を行い、一般質問の内容と行政側の答弁を報告し議会運営の理解を深めるとともに生活と政治を身近に感じてもらう。</li> <li>・所属する委員会等の活動を報告し、議員の活動の理解を深め。</li> <li>・地域からの課題を参加者と共有し、行政への提案、一般質問につなげ生活者視点での暮らしやすさを実現していく。</li> </ul>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大和市議会12月議会報告</li> <li>2. 地域からの課題と提案</li> </ol>	
成果等 (市に活かせること等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月議会の報告を通して、広く市政情報を伝えることができた。</li> <li>・大和市民生委員推薦会委員としての活動での気付きをお話した際、民生委員の方から南部では民生委員の訪問を快く思わない傾向があるとの課題提案があった。地域的なものか、家族介護が当たり前という空気感が他人に頼りたくないという心境になるのかもしれない。</li> <li>社協のふれあい訪問では、訪問を遠慮する高齢者にトイレトペーパーを手渡し、話のきっかけをつくっているという事例が参考になると感じた。</li> <li>ご家族へのアプローチも大切。</li> <li>・地域のゴミ屋敷問題にかかわって、家の周りは普通だが、玄関から廊下迄モノがあふれている高齢夫婦世帯がある。夫は一部屋を確保しているが妻は寝る場所も無く寝袋で寝ているので健康に支障が出ないか心配していると地域の課題提案があった。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とその子どもの親ひとり子ひとりの世帯でも同様の事例があった。子どもには障害があり年金生活で片付け費用の捻出ができず、協議体に相談があった。ボランティア3人がかりで3日間かけ、人が通れるまでにはしたが数千円の費用も大変だったのではないかと。</li> <li>・地域で見守りが必要な高齢者が増える中、支える側も高齢者に頼らざるを得ない状況がある。議会で支えあいの地域づくりを提案する必要があると感じた。</li> <li>・今後、特に身近な地域に協議体を増やしていく必要がある。</li> <li>・大和市の協議体がいくつあるかをご存じない方がいた。市内に5か所設置が進み上草柳地区で準備が進んでいることをお伝えし、大和市のHPの資料をお渡しした。今年度第1層協議体が一度も開かれておらず、引き続き、行政がリードしなければ設置が進まないとの声を議会で提案したいと思った。</li> <li>・コロナ禍、三密を避けながらこれからも報告会は地域ごとに行っていきたい。市政について意見交換できる機会を設けることで直接市民の声をいただくことができ、お互いに有意義な時間だった。</li> </ul>
事業費	<u>会, 2178円</u> (会場費: 1,800円、交通費: 378円)

※訪問先が2カ所以上の場合には行程表を添付すること

# 令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 令和4.3.3

事業名	第15回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 神奈川学習会		
会派名	神奈川ネットワーク運動	報告者	国兼 久子 (☎080-5539-5680)
参加者	国兼 久子、山崎 佐由紀		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input type="checkbox"/> ③広聴 <input type="checkbox"/> ④その他 (                      )		

## 概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日時	訪問先、会場、主催者等
	① 2月19日(土) 分科会 午後2時～4時30分	会場：オンライン 主催：第15回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 神奈川 実行委員会
	② 20(日) 全体会 午前10時～午前12時	
	②	
	③	
目的 (どのような課題を解決するためかなど)	<ul style="list-style-type: none"> <li>働く人が自ら出資し、運営に携わる「協同労働」という新しい働き方を実現するワーカーズ・コレクティブという働き方は、雇う雇われるの関係でない同じ思いをもった仲間との協同事業である。</li> <li>営利を第一の目的としないとして、企業とは違う視点で就労の場を生み出してきたが事業形態は多様化してきたようだ。</li> <li>孤立や分断を協同を目的としたネットワークで、支えあいの地域づくりに活かせる事例を学ぶ。</li> <li>大和市にも複数のワーカーズ・コレクティブが存在し、主に福祉の分野などで活動している。今後、地域でどのように活用が可能かを学ぶ。</li> </ul>	
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>第5分科会 「持続可能な“共にはたらく場”づくりを考える～可能性を求めて～」</li> <li>協同と連帯による持続可能な地域社会づくり～生産手段と地球を「コモン」として～ 講師： <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span></li> </ol>	
成果等 (市に活かせること等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで介護や障害福祉、子育て支援、街づくりなど地域の課題に取り組む人たちは、NPOや企業組合などの形態で活動していた。今回、支援の対象であった障がいを持つ方も協同の仲間として運営に携わる事例に触れ、新たな可能性を感じた。</li> <li>特にソーシャルファーム (Social Firm) 社会的企業という形態は、障がい者や引きこもりの若者など、通常の労働市場ではマッチした仕事を見つけにくい人達が、生き甲斐を持って働ける職場を提供する事業所の総称とのことと知り、</li> </ul>	

	<p>地域での展開が可能であればぜひ提案したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市でも、ワーカーズ・コレクティブやNPO法人、企業組合などの市民による事業が展開している。東京都が先駆的に取り組んでいる「ソーシャルファーム条例」や「東京都ソーシャルファーム制度」は大和市でも障がい者雇用の促進に寄与するとして提案したい事例だ。</li> <li>・ただし、認定事業者の実践事例の中で、申請手続きに膨大な事務作業があることは課題と感じた。</li> <li>・ワーカーズの高齢化で事業継続が難しくなっているケースでは、障がい者への理解が進みともに働く仲間として迎えることで、若返りや作業の細分化など新たな発想も生まれるのではないか。</li> <li>・課題は、認定機関が終了しても事業が収益を生み出していけるかだ。ワーカーズ・コレクティブやNPOの事業が採算の取れる事業ばかりではない事を考えると制度に頼り過ぎる不安がある。</li> </ul>
事業費	<p><u>6, 220円</u> (内訳: 参加費 3,000円×2人分、振り込み手数料 220)</p>

※訪問先が2カ所以上  
の場合は行程表を添付すること

# 令和3年度政務活動費調査研究報告書

提出日 令4・3・14

事業名	発達サポーター育星基礎講座（基礎a）		
会派名	神奈川県ネットワーク運動	報告者	山崎佐由紀（☎ 080-4832-0706）
参加者	山崎佐由紀、布瀬恵		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①研修 <input type="checkbox"/> ②視察 <input type="checkbox"/> ③広聴 <input type="checkbox"/> ④その他（                      ）		

## 概要

実施日時 訪問先、会場 主催者等	日時	訪問先、会場、主催者等
	令和3年5月31日 ～令和4年2月28日	オンライン及びシリウス601会議室 やまと療育推進プロジェクト

目的 どのような課題を解決するためかなど	<p>小中学校の普通級には、支援の必要な子どもが相当数いるといわれている。八王子市では、各学校に研修を受けたボランティアが参加し、子どものそれぞれの特性に応じた支援を行っている。子どもたちは自分にふさわしい方法で、学習に向かうことが可能となる。</p> <p>今年度、講習の初歩である発達サポーター講座が「令和3年度大和市市民活動補助金事業」として開講されたため、通年で参加した。</p>
-------------------------	--

内容	<p>発達サポーター育星基礎講座（基礎a）</p> <p>講師：明星大学教育学部 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span></p> <p>日時：令和3年5月31日～令和4年2月28日 9：30～11：30</p> <p>第1回 5月31日 特別支援教育</p> <p>第2回 6月28日 子どもの発達</p> <p>第3回 7月12日 診断と発達評価の仕方</p> <p>第4回 9月6日 素質と環境、教育環境の整え方、連携の仕方</p> <p>第5回 2月7日 障害特性の理解（ASD）</p> <p>第6回 2月14日 障害特性の理解（ASD2）</p> <p>第7回 2月28日 障害特性の理解（ADHD）</p>
----	--

<p>成 果 等 市に活かせること等</p>	<p>「虹色の子どもたち」という名の下に誰もがそれぞれ違う特性を持ち、同じ人間はひとりとしていないという理解をすることを念頭に置いてすべての講座が行われた。大人が知識を持つことでやさしい目で子どもを見ることができ、できないところではなく、できるところを探すことによって子どもの情緒を安定させ、子どもが元気になれる対応を学んだ。</p> <p>学校教育は「ノーマル」な子どもを基準に行われているが、ノーマルとはただ数が多いというだけ。授業等は多数を基準に行われているため、理解が早すぎる子どもやじっと座っていることが苦手な子ども、ゆっくりした子どもなど基準から離れた子どもはイライラが募り、パニックに陥ったり、不登校になったりしやすい。</p> <p>多様性の尊重と受容、すまわち、一人ひとりの特性を理解し、ノーマルでないことを肯定し、それぞれに対して「合理的配慮」を行うことで、子どもの情緒を安定させ、それぞれの子どもの発達に寄り添うことが可能となる。</p> <p>参加者は、保育所や学校関係者などの他にも発達障害の子ども保護者など多数の参加があった。身近な大人の対応が子どもに大きく影響する。子どもの支援という観点だけでなく、まず自分の特性を知る事の大切さも学んだ。大人の情緒が安定することにより、子どもへの対応が変わり、子どもの情緒も安定する。家庭や学校が居心地のよい場となり、課題とされていた子どもの対人関係等が変わっていく。</p> <p>また、発達障害のひとつの特性である「感覚の違い」についても学んだ。視力は問題がなくても見え方が違う場合や、聴力に問題がなくても聞こえすぎるなどつらいことがあるなど、知らなければ想像もできないことがある。</p> <p>例えば教科書等からノートに写すことは可能でも黒板の字が写せない子どもは縦から横への視覚の空間の移動ができないのかもしれない。このような子どもには「できるはず」という対応でなく、プリントを配ることや黒板をタブレットのようなもので写し、そこからノートに取るなどの対応をすることが「合理的配慮」である。</p> <p>このような知識を学校の教師が得ることは極めて重要と考える。また、八王子市のように講座を受けた市民が学校に出向いて子どもの支援を行うことで、学校が過ごしやすい場所になる子どもは増えると予想される。多くの市民がこの講座を受け、自分や子どもの見方を変化させることで、その存在全てを肯定される子どもが増えることが期待される。</p> <p>制度として盛り込めるような提案に結び付けられるよう、今後も学習していく。</p>
<p>事 業 費</p>	<p>21,590円 (受講料 10,000円×2 振込代 330円 交通費 1,260円 )</p>